

想定した経営類型 かんきつ専業経営 I (露地、SS防除体系)

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴
かんきつ専業 露地300a (SS防除体系) 経営耕地面積 自作地180a 借入地120a	人 2.5	極早生温州SS防除	a 20	1.露地みかんと中晩柑を組み合わせたかんきつ専業経営 2.普通温州は高糖度系温州を主体とし、ヒリュウ台苗木を導入 3.園内道を一体的に取り付け、スピードスプレー(SS)を導入 4.マルチ巻上げ装置の導入による被覆面積の拡大と作業の省力化 5.コンテナダンパーによる選果作業の省力化 6.ウッドチップパーによるせん定枝搬出作業の省力化
		早生温州SS防除	120	
		させぼ温州SS防除	60	
		普通・高糖度系温州SS防除	70	
		不知火等SS防除	30	
合計	300			
経営目標	1 農業総収入	21,576 千円	4 1日当たり農業所得	12,960 円
	2 農業経営費	14,512 千円	5 1人当たり年間労働時間	1,744 時間
	3 農業所得	7,064 千円		

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所有割合	取得価格	耐用年数	年間償却額
建物・施設	作業収納舎99㎡	1	鉄骨組み	1	千円 4,704	24	196
	貯蔵庫66㎡	1	コンクリートブロック	1	3,485	34	102
	園内道(単位10a)	30	2.0m幅、部分的に舗装	1	4,500	15	150
	計				12,689		449
農機具	スピードスプレー(SS)	1	4WD 500L 16.7kw	1	3,294	7	235
	トラック(普通)	1	2t積み	1	2,650	5	265
	トラック(軽)	1	0.35t積み、4WD	1	872	4	109
	小型運搬車	1	3kw、リフトダンプ付き	1	377	4	47
	動噴	1	4.0MPa、22L/min	1	199	7	14
	ウッドチップパー	1	7.4kw、2.2㎡/h	1	1,231	7	88
	刈払い機	3	排気量20.9ml	1	132	7	9
	選果機	1	ドラム式、5連自動選果	1	354	7	25
ローコンベア・コンテナダンパー・ホックス付昇降機	1	選果機の付属装置	1	1,010	7	72	
計				10,119		865	

3-1. 技術体系(極早生温州)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
間伐せん定	間伐整枝せん定	2~3月		1	16	16		<ul style="list-style-type: none"> ・開心自然形の独立樹とする。 ・主枝の近く、垂主枝基部に発生した立ち枝は間引きする。
土壌改良	堆肥、土壌改良資材施用	1~2月	トラック	2	3.5	7	堆肥 2t 苦土入りカキガラ石灰 100kg	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌改良資材は土壌診断の結果に基づいて施用する。 ・2~3年に1回を目標に、樹間を部分的に中耕する。
草生管理	草刈り	4月 8月 9月	刈払機	1	5	5		<ul style="list-style-type: none"> ・除草剤の使用は夏草雑草発生期に留め、雑草草生による地力向上に努める。 ・使用薬剤、使用方法は県雑草防除基準による。
	除草剤散布	5~6月	動噴	2	2	4		
マルチ	被覆準備	5月	運搬車	2	3	6		<ul style="list-style-type: none"> ・巻き上げ装置にマルチを取り付け、株元に巻き上げておく。 ・梅雨期の晴れ間をみて被覆し、積極的に熟期促進と品質向上を図る。 ・過乾燥になった場合は、適宜灌水する。 ・全面積をマルチ被覆として試算
	被覆	6/下		1	0.5	0.5	透湿性フィルム 2×100m 3本 (5年償却)	
	除去	10/下		2	0.5	1	堆肥袋 (5kg入) 150個	
施肥	春肥 初秋肥 秋肥	3/上 10/上 10/下	運搬車	1	3	3	配合肥料 (N:8%)100kg (N:8%)150kg	<ul style="list-style-type: none"> ・肥料の種類、施肥量は土壌条件、樹勢などにより調整する。 ・年間の窒素施肥割合 春肥 40% 初秋肥 30% 秋肥 30% ・樹勢回復のため、秋肥は2回に分けて施用する。
防除	薬剤散布	4/上 ~ 12月	SS	1	8.5	8.5	1回の散布量 300~500L	<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫の発生予察情報に注意して適期防除に努め、農薬散布回数ができるだけ低減する。 ・近隣圃場への農薬の飛散防止に努める。 ・果実の腐敗防止剤は必ず散布する。 ・使用薬剤、散布時期、使用回数は県病害虫防除基準による。

3-1. 技術体系(極早生温州)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項																																																		
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間																																																				
摘果	粗摘果	6/中 ~ 6/下		1	15	15	摘果ノギス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期摘果により果実肥大を促進し、品質向上に努める。 ・ 時期別摘果の目安として、摘果ノギスを利用する。 ・ 時期別摘果目標値 (岩崎早生 単位:mm) <table border="1"> <thead> <tr> <th>月/日</th> <th>M以上</th> <th>L以下</th> <th>糖度</th> <th>酸含量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7/20</td> <td>39</td> <td>46</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>42</td> <td>50</td> <td>7.9</td> <td>3.40</td> </tr> <tr> <td>8/10</td> <td>45</td> <td>54</td> <td>8.3</td> <td>3.00</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>48</td> <td>57</td> <td>8.7</td> <td>2.60</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>52</td> <td>61</td> <td>9.3</td> <td>2.20</td> </tr> <tr> <td>9/10</td> <td>55</td> <td>65</td> <td>9.8</td> <td>1.80</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>58</td> <td>69</td> <td>10.2</td> <td>1.50</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>60</td> <td>70</td> <td>10.6</td> <td>1.30</td> </tr> <tr> <td>10/10</td> <td>62</td> <td>73</td> <td>11.0</td> <td>1.00</td> </tr> </tbody> </table> 	月/日	M以上	L以下	糖度	酸含量	7/20	39	46	-	-	30	42	50	7.9	3.40	8/10	45	54	8.3	3.00	20	48	57	8.7	2.60	30	52	61	9.3	2.20	9/10	55	65	9.8	1.80	20	58	69	10.2	1.50	30	60	70	10.6	1.30	10/10	62	73	11.0	1.00
	月/日	M以上	L以下	糖度	酸含量																																																					
	7/20	39	46	-	-																																																					
30	42	50	7.9	3.40																																																						
8/10	45	54	8.3	3.00																																																						
20	48	57	8.7	2.60																																																						
30	52	61	9.3	2.20																																																						
9/10	55	65	9.8	1.80																																																						
20	58	69	10.2	1.50																																																						
30	60	70	10.6	1.30																																																						
10/10	62	73	11.0	1.00																																																						
仕上げ摘果	7/下 ~ 8/上		1	15	15																																																					
樹上選果	9/上 ~ 9/中		1	10	10																																																					
収穫出荷	収穫	9/下 ~ 10/中	トラック	3	16	48	コンテナ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出荷基準に達した果実から分割採取する。 ・ 適期収穫に努め、果実の取り扱いはいねいに行う。 ・ 家庭選果の徹底に努める。 ・ コンテナダンパー活用による選果作業の省力化を図る。 																																																		
	選別出荷			2	6	12																																																				
その他	道路・排水溝整備、防風樹管理、灌水等	1~12月		1	15	15		<ul style="list-style-type: none"> ・ 干ばつが著しく落葉のおそれがあれば灌水し、株元に敷きわらをする。 ・ 園内外の排水溝を整備して、園内の土壌乾燥を促す。 ・ 防風樹は、遮蔽率70~80%程度に刈り込む。 ・ 園内道の土羽面と走行部分は雑草草生とし、旋回部分などを部分的にコンクリート舗装として土壌流亡を防ぐ。 																																																		
計						166																																																				

3-2. 技術体系(早生温州)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
間伐せん定	間伐整枝せん定	2~3月		1	16	16		<ul style="list-style-type: none"> ・開心自然形の独立樹とする。 ・主枝の近く、垂主枝基部に発生した立ち枝は間引きする。
土壌改良	堆肥、土壌改良資材施用	1~2月	トラック	2	3.5	7	堆肥 2t 苦土入りカキガラ石灰 100kg	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌改良資材は土壌診断の結果に基づいて施用する。 ・2~3年に1回を目標に、樹間を部分的に中耕する。
草生管理	草刈り	4月 8月 9月	刈払機	1	4	4		<ul style="list-style-type: none"> ・除草剤の使用は夏草雑草発生期に留め、雑草草生による地力向上に努める。 ・使用薬剤、使用方法は県雑草防除基準による。
	除草剤散布	5~6月	動噴	2	2	4		
マルチ	被覆準備	5月	運搬車	2	3	6		<ul style="list-style-type: none"> ・巻き上げ装置にマルチを取り付け、株元に巻き上げておく。 ・梅雨明け7~10日後、土壌がある程度乾燥してから被覆する。 ・過乾燥になった場合は、適宜灌水する。 ・全面積をマルチ被覆として試算
	被覆	7/中		1	0.5	0.5	透湿性フィルム 2×100m 4本 (5年償却)	
	除去	11/下		2	0.5	1	堆肥袋 (5kg入) 200個	
施肥	春肥 夏肥 秋肥	3/中 5/下 11/下	運搬車	1	3	3	配合肥料 (N:8%)90kg (N:8%)70kg (N:8%)100kg	<ul style="list-style-type: none"> ・肥料の種類、施肥量は土壌条件、樹勢などにより調整する。 ・年間の窒素施肥割合 春肥 35% 夏肥 25% 秋肥 40% ・隔年結果を防止するためにも肥料は適量施用する。
防除	薬剤散布	4~12月	SS	1	8.5	8.5	1回の散布量 300~500L	<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫の発生予察情報に注意して適期防除に努め、農薬散布回数ができるだけ低減する。 ・近隣圃場への農薬の飛散防止に努める。 ・果実の腐敗防止剤は必ず散布する。 ・使用薬剤、散布時期、使用回数は県病害虫防除基準による。 ・品質向上及び浮皮軽減を図るため、植物成長調整剤を散布する。

3-2. 技術体系(早生温州)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項																																																																	
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間																																																																			
摘果	粗摘果	6/下 ~ 7/上		1	15	15	摘果ノギス	<ul style="list-style-type: none"> ・早期摘果により果実肥大を促進し、果こう枝の細い下向きの果実を残すよう努める。 ・時期別摘果の目安として、摘果ノギスを利用する。 ・時期別摘果目標値 (原口早生 単位:mm) <table border="1"> <thead> <tr> <th>月/日</th> <th>M以上</th> <th>L以下</th> <th>糖度</th> <th>酸含量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7/20</td> <td>37</td> <td>44</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>40</td> <td>47</td> <td>8.0</td> <td>4.00</td> </tr> <tr> <td>8/10</td> <td>42</td> <td>50</td> <td>8.4</td> <td>3.50</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>46</td> <td>54</td> <td>8.8</td> <td>3.10</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>49</td> <td>58</td> <td>9.4</td> <td>2.80</td> </tr> <tr> <td>9/10</td> <td>52</td> <td>61</td> <td>9.9</td> <td>2.50</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>54</td> <td>64</td> <td>10.3</td> <td>2.10</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>56</td> <td>66</td> <td>10.7</td> <td>1.70</td> </tr> <tr> <td>10/10</td> <td>58</td> <td>69</td> <td>11.3</td> <td>1.40</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>59</td> <td>70</td> <td>11.8</td> <td>1.30</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>61</td> <td>71</td> <td>12.2</td> <td>1.10</td> </tr> <tr> <td>11/10</td> <td>62</td> <td>73</td> <td>12.5</td> <td>1.00</td> </tr> </tbody> </table>	月/日	M以上	L以下	糖度	酸含量	7/20	37	44	-	-	30	40	47	8.0	4.00	8/10	42	50	8.4	3.50	20	46	54	8.8	3.10	30	49	58	9.4	2.80	9/10	52	61	9.9	2.50	20	54	64	10.3	2.10	30	56	66	10.7	1.70	10/10	58	69	11.3	1.40	20	59	70	11.8	1.30	30	61	71	12.2	1.10	11/10	62	73	12.5	1.00
	月/日	M以上	L以下	糖度	酸含量																																																																				
	7/20	37	44	-	-																																																																				
30	40	47	8.0	4.00																																																																					
8/10	42	50	8.4	3.50																																																																					
20	46	54	8.8	3.10																																																																					
30	49	58	9.4	2.80																																																																					
9/10	52	61	9.9	2.50																																																																					
20	54	64	10.3	2.10																																																																					
30	56	66	10.7	1.70																																																																					
10/10	58	69	11.3	1.40																																																																					
20	59	70	11.8	1.30																																																																					
30	61	71	12.2	1.10																																																																					
11/10	62	73	12.5	1.00																																																																					
仕上げ摘果	8/中 ~ 8/下		1	15	15																																																																				
樹上選果	9/下 ~ 10/上		1	10	10																																																																				
収穫出荷	収穫	10/下 ~ 11/下	トラック	3	18	54	コンテナ	<ul style="list-style-type: none"> ・適期収穫に努め、果実の取り扱いはいねいに行う。 ・家庭選果の徹底に努める。 ・コンテナダンパー活用による選果作業の省力化を図る。 																																																																	
	選別出荷			2	6	12																																																																			
その他	道路・排水溝整備、防風樹管理、灌水等	1~12月		1	15	15		<ul style="list-style-type: none"> ・干ばつが著しく落葉のおそれがあれば灌水し、株元に敷きわらをする。 ・園内外の排水溝を整備して、園内の土壌乾燥を促す。 ・防風樹は、遮蔽率70~80%程度に刈り込む。 ・園内道の土羽面と走行部分は雑草草生とし、旋回部分などを部分的にコンクリート舗装として土壌流亡を防ぐ。 																																																																	
計						171																																																																			

3-3. 技術体系(させぼ温州)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
間伐せん定	間伐整枝せん定	2~3月		1	16	16		<ul style="list-style-type: none"> ・開心自然形の独立樹とする。 ・若木で結実が安定するまでは、樹冠内まで日が当たるよう間引きせん定を主体とする。
土壌改良	堆肥、土壌改良資材施用	1~2月	トラック	2	3.5	7	堆肥 2t 苦土入りカキガラ石灰 100kg	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌改良資材は土壌診断の結果に基づいて施用する。 ・2~3年に1回を目標に、樹間を部分的に中耕する。
草生管理	草刈り	4月 8月 9月	刈払機	1	4	4		<ul style="list-style-type: none"> ・除草剤の使用は夏草雑草発生期に留め、雑草草生による地力向上に努める。 ・使用薬剤、使用方法は県雑草防除基準による。
	除草剤散布	5~6月	動噴	2	2	4		
マルチ	被覆準備	5月	運搬車	2	3	6		<ul style="list-style-type: none"> ・巻き上げ装置にマルチを取り付け、株元に巻き上げておく。 ・梅雨明け7~10日後、土壌がある程度乾燥してから被覆する。 ・過乾燥になった場合は、適宜灌水する。 ・全面積をマルチ被覆として試算 ・幼木で次年度初着果の園では着花促進のため9月上旬から11月までマルチ被覆する。
	被覆	7/下		1	0.5	0.5	透湿性フィルム 2×100m 4本 (5年償却)	
	除去	11/下		2	0.5	1	堆肥袋 (5kg入) 200個	
施肥	春肥 夏肥 秋肥	3/中 5/下 11/下	運搬車	1	3	3	配合肥料 (N:8%)90kg (N:8%)70kg (N:8%)110kg	<ul style="list-style-type: none"> ・肥料の種類、施肥量は土壌条件、樹勢などにより調整する。 ・年間の窒素施肥割合 春肥 35% 夏肥 25% 秋肥 40% ・隔年結果を防止するためにも肥料は適量施用する。
防除	薬剤散布	4~12月	SS	1	8.5	8.5	1回の散布量 300~500L	<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫の発生予察情報に注意して適期防除に努め、農薬散布回数ができるだけ低減する。 ・近隣圃場への農薬の飛散防止に努める。 ・果実の腐敗防止剤は必ず散布する。 ・使用薬剤、散布時期、使用回数は県病害虫防除基準による。 ・品質向上及び浮皮軽減を図るため、植物成長調整剤を散布する。

3-3. 技術体系(させぼ温州)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
摘果	粗摘果	8/上 ~ 8/中		1	15	15	摘果ノギス	<ul style="list-style-type: none"> ・果実品質を高めるため、果こう枝の細い下向きの果実を残すよう努める。 ・結果枝の先端の果実を残し枝を垂れ下げ秋枝の発生を防ぐ。 ・時期別目標果実品質 月/日 M級果 L級果 糖度 酸含量
	仕上げ摘果	9/上 ~ 9/中		1	15	15		
	樹上選果	10/中		1	10	10		
収穫出荷	収穫	11/下 ~ 12/中	トラック	3	18	54	コンテナ	<ul style="list-style-type: none"> ・適期収穫に努め、果実の取り扱いはていねいに行う。 ・家庭選果の徹底に努める。 ・コンテナダンパー活用による選果作業の省力化を図る。
	選別出荷			2	6	12		
新梢管理	芽かき枝抜き	4~5月		1	4	4		<ul style="list-style-type: none"> ・生理落果を防止するため、開花前の芽かきや生理落果前のかぶさり枝の除去を行う。 ・幼木期は芽かきを行い、樹冠の拡大に努める。
その他	道路・排水溝整備、防風樹管理、灌水等	1~12月		1	15	15		<ul style="list-style-type: none"> ・干ばつが著しく落葉のおそれがあれば灌水し、株元に敷きわらをする。 ・園内外の排水溝を整備して、園内の土壤乾燥を促す。 ・防風樹は、遮蔽率70~80%程度に刈り込む。 ・園内道の土羽面と走行部分は雑草草生とし、旋回部分などを部分的にコンクリート舗装として土壤流亡を防ぐ。
計						175		

3-4. 技術体系(普通・高糖度系温州)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
間伐せん定	間伐 整枝 せん定	2~3月		1	16	16		<ul style="list-style-type: none"> ・高糖度系温州では特に独立樹とし、樹幹内部への受光量の増大を図る。 ・太枝の間引き中心の軽いせん定で葉数の増加、着花促進、品質向上を図る。
土壌改良	堆肥、 土壌改良資材 施用	1~2月	トラック	2	3.5	7	堆肥 2t 苦土入りカキ ガラ石灰 100kg	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌改良資材は土壌診断の結果に基づいて施用する。 ・2~3年に1回を目標に、樹間を部分的に中耕する。
草生管理	草刈り	4月 8月 9月	刈払機	1	5	5		<ul style="list-style-type: none"> ・除草剤の使用は夏草雑草発生期に留め、雑草草生による地力向上に努める。 ・使用薬剤、使用方法は県雑草防除基準による。
	除草剤 散布	6~7月	動噴	2	2	4		
マルチ	被覆 準備	5月		2	3	6		<ul style="list-style-type: none"> ・巻き上げ装置にマルチを取り付け、株元に巻き上げておく。
	被覆	8/上	運搬車	1	0.5	0.5	透湿性フィルム 2×100m 4本 (5年償却)	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌の乾燥程度を見て被覆する。 ・過乾燥になった場合は適宜かん水する。 ・全面積をマルチ被覆として試算
	除去	12/上		2	0.5	1	堆肥袋 (5kg入) 200個	
施肥	春肥 夏肥 秋肥	3/下 5/下 11/下	運搬車	1	3	3	配合肥料 (N:8%)110kg (N:8%)80kg (N:8%)120kg	<ul style="list-style-type: none"> ・肥料の種類、施肥量は土壌条件、樹勢などにより調整する。 ・年間の窒素施肥割合 春肥 35% 夏肥 25% 秋肥 40% ・隔年結果を防止するためにも肥料は適量施用する。
防除	薬剤散布	4 ~ 12月	SS	1	8.5	8.5	1回の散布量 300~500L	<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫の発生予察情報に注意して適期防除に努め、農薬散布回数はできるだけ低減する。 ・近隣圃場への農薬の飛散防止に努める。 ・果実の腐敗防止剤は必ず散布する。 ・使用薬剤、散布時期、使用回数は県病害虫防除基準による。 ・品質向上及び浮皮軽減を図るため、植物成長調整剤を散布する。

3-4. 技術体系(普通・高糖度系温州)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項																																																																											
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間																																																																													
摘果	粗摘果	8/中 ～ 8/下		1	10	10	摘果ノギス	<ul style="list-style-type: none"> ・枝別全摘果、群着果により隔年結果是正と中玉果生産に努める。 ・時期別摘果の目安として、摘果ノギスを利用する。 ・時期別摘果目標値 (青島温州 単位:mm) <table border="1"> <thead> <tr> <th>月/日</th> <th>M以上</th> <th>L以下</th> <th>糖度</th> <th>酸含量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7/30</td> <td>35</td> <td>38</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>8/10</td> <td>38</td> <td>41</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>40</td> <td>46</td> <td>8.0</td> <td>4.40</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>43</td> <td>49</td> <td>8.5</td> <td>4.00</td> </tr> <tr> <td>9/10</td> <td>46</td> <td>54</td> <td>8.8</td> <td>3.60</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>49</td> <td>57</td> <td>9.0</td> <td>3.20</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>50</td> <td>59</td> <td>9.3</td> <td>2.70</td> </tr> <tr> <td>10/10</td> <td>53</td> <td>63</td> <td>9.9</td> <td>2.20</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>55</td> <td>65</td> <td>10.5</td> <td>1.80</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>58</td> <td>69</td> <td>11.1</td> <td>1.60</td> </tr> <tr> <td>11/10</td> <td>59</td> <td>70</td> <td>11.7</td> <td>1.40</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>60</td> <td>72</td> <td>12.3</td> <td>1.20</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>62</td> <td>73</td> <td>12.6</td> <td>1.10</td> </tr> <tr> <td>12/10</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>13.0</td> <td>1.00</td> </tr> </tbody> </table> 	月/日	M以上	L以下	糖度	酸含量	7/30	35	38	-	-	8/10	38	41	-	-	20	40	46	8.0	4.40	30	43	49	8.5	4.00	9/10	46	54	8.8	3.60	20	49	57	9.0	3.20	30	50	59	9.3	2.70	10/10	53	63	9.9	2.20	20	55	65	10.5	1.80	30	58	69	11.1	1.60	11/10	59	70	11.7	1.40	20	60	72	12.3	1.20	30	62	73	12.6	1.10	12/10	-	-	13.0	1.00
	月/日	M以上	L以下	糖度	酸含量																																																																														
	7/30	35	38	-	-																																																																														
8/10	38	41	-	-																																																																															
20	40	46	8.0	4.40																																																																															
30	43	49	8.5	4.00																																																																															
9/10	46	54	8.8	3.60																																																																															
20	49	57	9.0	3.20																																																																															
30	50	59	9.3	2.70																																																																															
10/10	53	63	9.9	2.20																																																																															
20	55	65	10.5	1.80																																																																															
30	58	69	11.1	1.60																																																																															
11/10	59	70	11.7	1.40																																																																															
20	60	72	12.3	1.20																																																																															
30	62	73	12.6	1.10																																																																															
12/10	-	-	13.0	1.00																																																																															
仕上げ摘果	9/中 ～ 9/下		1	15	15																																																																														
樹上選果	10/中 ～ 10/下		1	10	10																																																																														
収穫出荷	収穫	12/上 ～ 12/下	トラック	3	18	54	コンテナ	<ul style="list-style-type: none"> ・適期収穫に努め、果実の取り扱いはいないで行う。 ・貯蔵に当たっては3%程度の予措を行う。 ・貯蔵温度5～6℃、湿度85%を目標とする。 ・入庫量は250～300kg/m³とする。 ・家庭選果の徹底に努める。 ・コンテナダンパー活用による選果作業の省力化を図る。 																																																																											
	選別出荷	12/中 ～ 2/上		2	8	16																																																																													
その他	道路・排水溝整備、防風樹管理、灌水等	1～12月		1	15	15		<ul style="list-style-type: none"> ・干ばつにより落葉のおそれがあれば灌水し、株元に敷きわらをする。 ・園内外の排水溝を整備して、園内の土壤乾燥を促す。 ・防風樹は、遮蔽率70～80%程度に刈り込む。 ・園内道の土羽面と走行部分は雑草草生とし、旋回部分などを部分的にコンクリート舗装として土壤流亡を防ぐ。 																																																																											
計						171																																																																													

3-5. 技術体系(不知火 露地)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
間伐せん定	間伐 整枝 せん定	2~3月	トラック	1	15	15	支柱 結束用ひも 2巻	・主枝は支柱を立てて誘引し、先端は切り返して新梢発生を促す。
土壌改良	堆肥、 土壌改良資材 施用	2~3月	トラック	2	4.5	9	堆肥 3t 苦土入りカキ ガラ石灰 100kg	・土壌改良資材は土壌診断の結果に基づいて施用する。 ・2~3年に1回を目標に、樹間を部分的に中耕する。
草生管理	草刈り	4月 8月 9月	刈払機	1	6	6		・除草剤の使用は夏草雑草発生期に留め、雑草草生による地力向上に努める。 ・使用薬剤、使用方法は県雑草防除基準による。
	除草剤 散布	6~7月	動噴	2	2	4		
施肥	春肥 夏肥 初秋肥 秋肥	3/上 5/下 9/上 10/下	運搬車	1	4	4	配合肥料 (N:12%)70kg (N:12%)70kg (N:12%)40kg (N:12%)40kg	・年間の施肥割合 春肥 :30% 夏肥 :30% 初秋肥 :20% 秋肥 :20% ・施肥量が多すぎると細根が少なくなり、酸含量の減少が遅れるので注意する。
防除	薬剤散布	2 ~ 12月	SS	1	7	7	1回の散布量 300~500L	・病害虫の発生予察情報に注意して適期防除に努め、農薬散布回数にはできるだけ低減する。 ・近隣圃場への農薬の飛散防止に努める。 ・果実の腐敗防止剤は必ず散布する。 ・使用薬剤、散布時期、使用回数は県病害虫防除基準による。 ・ウイルスによる樹勢低下を防止するため、優良苗(M16A苗)を導入する。
摘果、 枝つり	粗摘果	6/上 ~ 6/下		1	25	25	支柱 結束ひも 摘果ノギス	・早期摘果に重点をおき、果実の肥大促進に努める。 ・結果部位は中~下部を主体とし、上部は着果制限をして、樹勢維持に努める。 ・最終的な着果程度は11果/m3を目安とする。 ・果実肥大促進、品質向上、枝折れ防止を目的に、摘果と並行して枝つり、玉つりを行う。
	仕上げ 摘果	7/下 ~ 8/上		1	10	10		
	樹上 選果	8~9 月		1	14	14		
	枝つり	9~ 10月		1	6	6		

3-5. 技術体系(不知火 露地)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
(袋かけ)		11/下 ~ 12/上		(1)	(24)	(24)	(果実袋サンテ6,000枚)	・(酸含量が高く、収穫が2月以降になる場合は、寒害及び鳥害防止のため、部分的に果実袋をかける。)
収穫出荷	収穫	1/中 ~ 2/下	トラック	2	22	44	コンテナ	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫前に雨が多いと水腐れ症が発生するので、収穫時が多雨の年は早めに収穫する。 ・収穫時に凸部分にハサミ傷をつけないよう注意する。 ・コンテナの底にマットを敷き、果実は転がさないよう注意する。
	選別出荷	3月		2	10	20		
貯蔵	予措貯蔵	1~3月		1	6	6	コンテナ ポリ袋 (0.02mm) 5,000枚	<ul style="list-style-type: none"> ・3~5%程度の予措を行い、貯蔵後、酸含量が減少してから出荷する。 ・入庫量は250kg/m³程度とする。 ・貯蔵温度は6~8℃、湿度は85%を目安とする。 ・3月以降まで貯蔵する場合はポリ個装を行う。
新梢管理	芽かき枝抜き	4~6月		1	4	4		<ul style="list-style-type: none"> ・生理落果を防止するため、開花前の芽かきや生理落果前のかぶさり枝の除去を行う。 ・幼木期は芽かきを行い、樹冠の拡大に努める。
その他	道路・排水溝整備、防風樹管理、灌水等	1~12月	小型運搬車、トラック	1	15	15		<ul style="list-style-type: none"> ・干ばつにより落葉のおそれがあれば灌水し、株元に敷きわらをする。 ・園内外の排水溝を整備して、園内の土壌乾燥を促す。 ・防風樹は、遮蔽率70~80%程度に刈り込む。 ・園内道の土羽面と走行部分は雑草草生とし、旋回部分などを部分的にコンクリート舗装として土壌流亡を防ぐ。
計						189		(作業時間の中には袋かけの労力は含まれていない。)

4. 品目の作付体系

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
極早生温州 (マルチ)	土壤改良	せん定	春肥	↑ 草刈	※ ↓	↓ 摘果 マ	マルチ被覆 摘果		☆	◆◆◆◆ 初秋肥 秋肥		
早生温州 (マルチ)	土壤改良	せん定	春肥	↑ 草刈	※ ↓ 夏肥	↓	摘果 マルチ被覆		☆		◆◆◆◆ 秋肥	
させぼ温州 (マルチ)	土壤改良	せん定	春肥	↑ 草刈	※ ↓ 夏肥	↓	マルチ被覆 摘果		☆		◆◆ 秋肥	◆◆
普通・高糖度系温州 (マルチ)	土壤改良	◆ せん定	春肥	↑ 草刈	※ ↓ 夏肥	↓	マルチ被覆 摘果		☆		◆◆◆◆ 秋肥	◆◆◆◆
不知火等 (露地)	■	土壤改良	◆ せん定 春肥	↑ 草刈	※ ↓ 夏肥	↓ 摘果			☆ 枝つり 秋肥	☆ 秋肥		

注) 生育ステージ記号 ↑:発芽 ※:開花 ↓:生理落果 ☆:着色始め ■:収穫 ◆:出荷

5. 作業別・旬別労働時間(10a当たり時間)

1) 極早生温州(SS防除)

品目・作業/月・旬	1	2	3	3	3	3	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
間伐せん定		2	3	3	3	2											16
土壌改良	4	3															7
草生管理					2				2			1.5					9
マルチ管理					6	0.5								1			7.5
施肥			1											1			3
防除					0.5	1	1	1	1	1	1	0.5	1	0.5		0.5	8.5
摘果									10	5	5	10	5	18	22	20	60
収穫出荷												2	2				15
その他					2	2	1	2									0
計	0	0	4	5	3	3	4	5	4	4.5	2	1	2.5	6	3	1	10
月計	4	11	13	13	7.5	4	7.5	19.5	11.5	6	7	14	33	45	0	0.5	166

2) 早生温州(SS防除)

品目・作業/月・旬	1	2	3	3	3	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	
間伐せん定		2	3	3	3	2										16	
土壌改良	4	3														7	
草生管理					2				2		1					8	
マルチ管理					6					0.5						7.5	
施肥			1													3	
防除					0.5	1	1	1	1	1	0.5	1	0.5			8.5	
摘果								10	5	5	10	5	5	20	30	10	40
収穫出荷											2			6	20	30	66
その他					2	2	1	2				2					15
計	0	0	4	5	3	3	3	6	4	1	0	13	6	0.5	1	5	0
月計	4	11	13	13	7.5	4	7.5	12.5	6	7.5	18.5	9	11.5	62	0.5	171	

3) させぼ温州(SS防除)

品目・作業/月・旬	1	2	3	3	3	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	
間伐せん定		2	3	3	3	2										16	
土壌改良	4	3														7	
草生管理					2				2		1					8	
マルチ管理					6					0.5						7.5	
施肥			1													3	
防除					0.5	1	1	1	1	1	0.5	1	0.5	0.5		8.5	
摘果										10	5	10	5	30	30	66	
収穫出荷								2								4	
新梢管理					2	2	1	2			2					15	
その他																0	
計	0	0	4	5	3	3	3	6	4	4.5	2	3	4.5	0	10	1	0
月計	4	11	13	13	9.5	4	9.5	14.5	4	12.5	8.5	19	10	32.5	36.5	175	

4) 普通温州(SS防除)

品目・作業/月・旬	1	2	3	3	3	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
間伐せん定		2	3	3	3	2										16
土壌改良	4	3														7
草生管理						2			2	2		1				9
刈草管理								6	0.5						1	7.5
施肥			1					1						1		3
防除					0.5	1	1	1	1	1	0.5	1		0.5		8.5
摘果									5	5	10	5	5			35
収穫出荷	3	2	1					2							20	30
その他					2	2	2	1	2		2					12
計	3	2	6	3	3	6	4	4.5	2	1	2.5	0	8	3	0	1
月計	11						7.5	10.5	4	4	15	19	10	1.5	63.5	171

5) 不知火等(SS防除)

品目・作業/月・旬	1	2	3	3	3	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
間伐剪定		2	8	3	2											15
土壌改良		3	3	3												9
草生管理						2			2	2						10
施肥				1				1								4
防除		0.5				0.5		0.5	1	1	0.5	1		0.5		8
摘果								10	10	5	5	5	4			49
枝つり												2	2			6
収穫出荷	10	30	10	5	4											64
貯蔵	1	1	1	1	1											6
芽かき						2	2	1	2							4
その他						2	2	1	2		2					15
計	0	11	31	11.5	11	17	12	4	2	4.5	2	3	3.5	0	2	12
月計	42					39.5	9.5	5.5	29	9	19.5	14	3	0.5	0.5	190

6. 総労働時間

品目・作業/月・旬	1	2	3	3	3	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
総労働時間	21	47	215	177	114	132	119	172	114	135	60	48	90	84	176	77
うち家族労働	21	47	148	160	114	132	119	172	114	135	60	48	90	84	176	77
うち雇用労働	0	0	66.7	16.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41.3
計	0	11	31	11.5	11	17	12	4	2	4.5	2	3	3.5	0	2	12
月計	42					39.5	9.5	5.5	29	9	19.5	14	3	0.5	0.5	190